

村上委員提出資料

第2回デジタル・サイバーセキュリティWG
2026年4月6日

[データプラットフォーム] 「箱の構築」から「意味を共有」するレイヤーへ

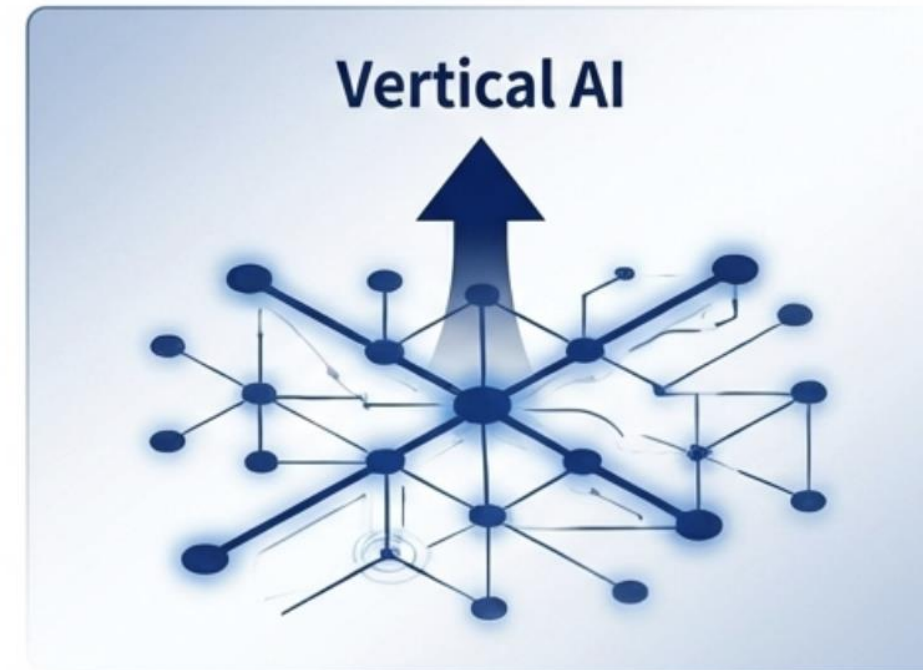
具体だけでも抽象だけでもAIは機能しない：

「どういう意味で繋がっているのか」を定義するレイヤーの国産化の検討と
グローバル展開が急務

産業データスペースの活用とバーティカルAIの加速が必要

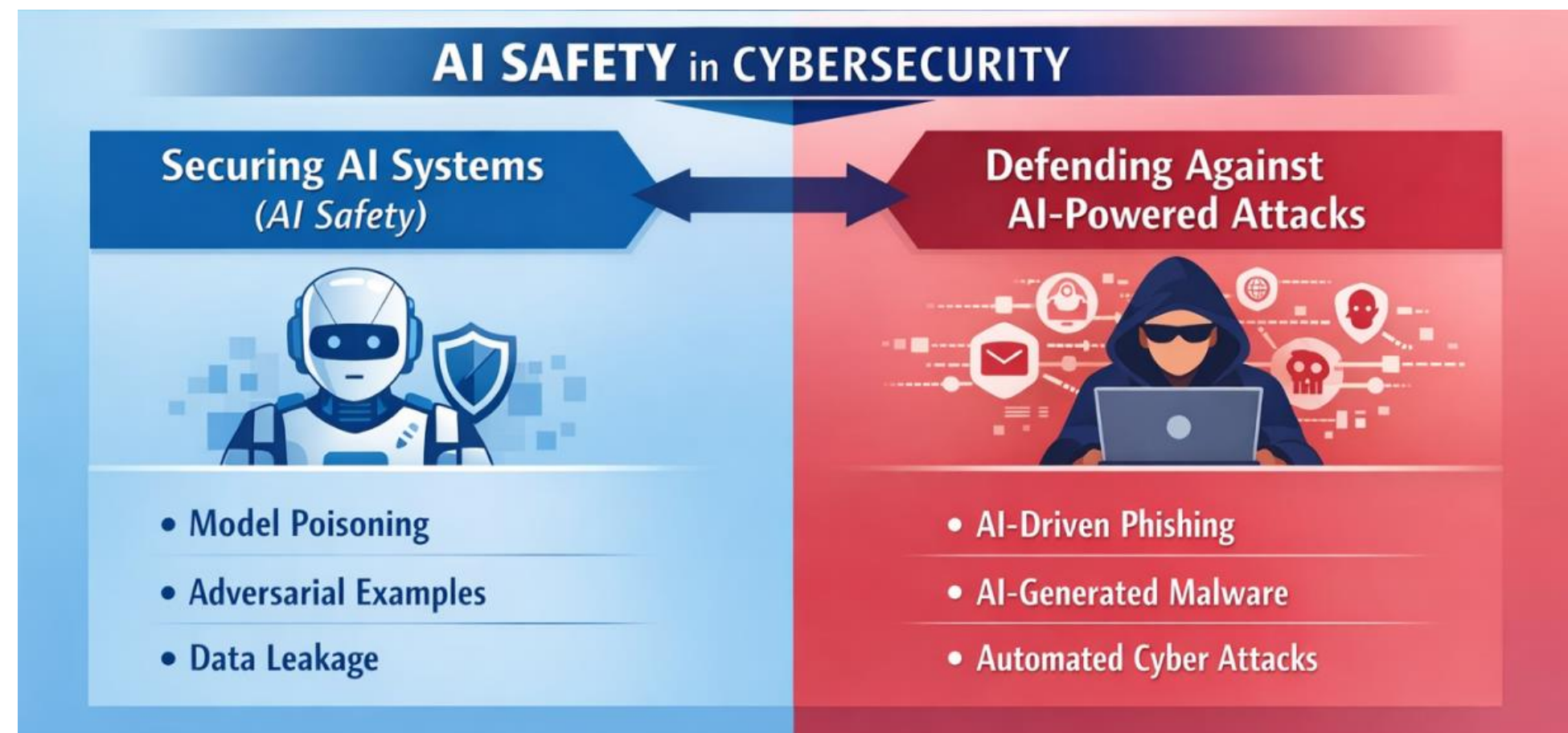


単なるプラットフォームの構築
(データの格納)

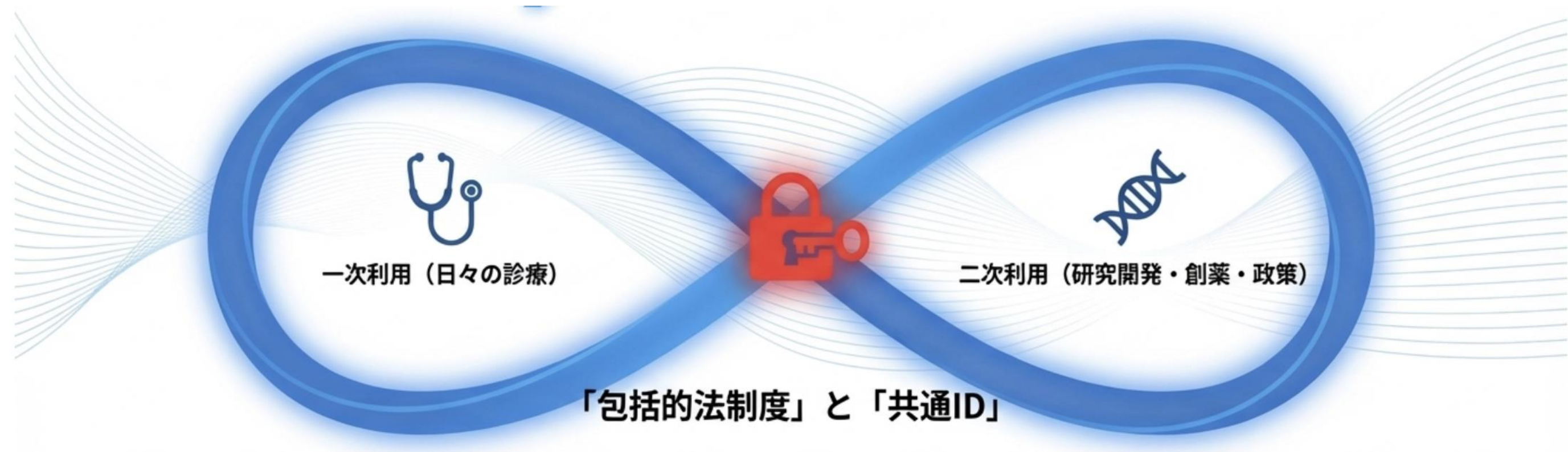


セマンティック・レイヤーの構築と
垂直統合 (バーティカルAI)

- ・ セキュリティは才能に依存。サイバーセキュリティタレントは「育成」だけでなく「発見」へ
- ・ Security for AI systemと AI for Securityの融合を考える
 - ・ 分けて考えるほどの余裕はもはや日本にはない
- ・ サイバーセキュリティ情報をどう集め、どう活かすか
 - ・ インシデントレポートの収集と活用法。誰がみて良いのかの議論は安全保障ともつながる



これから発展させる医療のクラウド化を好機とみなし、一気に医療情報の循環を目指す
そのためには包括的な法整備と相互運用性に必要な共通IDが必要



質の高い「データ」と「人材」のエコシステムを樹立と
グローバル市場を見据えた日本の勝ち筋の再定義が必要

